連載寄稿

宮前ガバナンス5月号

被災地を訪れて～求められる決断力

川崎市議会議員　石田やすひろ

震災から2カ月。かねてから「被災地にボランティアに行きたい」と考えていましたが、ようやく準備が整い出向くことが叶いました。目的地は石巻市。災害ボランティアセンターを通して活動してきました。

作業をしたのは海岸から2kmほど離れた1軒のお宅。一部。まだまだ手が必要だと感じました。津波で1階部分は浸水被害に遭われたようです。幸い、家主のおばあさんは地震時に避難していたため無事とのことです。そこで私は家の周辺の泥を土のうに詰め、運び出す作業をしました。

周辺は同様の被害が出ていて、私ができたのはほんの

今、必要なこと

人手不足を感じる以上に、被災地のボランティアの方々の声が聞けたのが大きな収穫でした。1カ月活動をしているある青年は「多くの義援金が集まっていると聞きましたがどこにプールされているのか？」と語り、また別の方は「今、土のうやガレキを運ぶトラックが足りない、義援金を少しでも充ててもらえれば」と話していました。

義援金の配布は、公平性をもって進めなければならないとは理解しています。しかし、現在も扱いがはっきりしない現状を鑑みると、このような善意ある若者たちの声が果たして届いているのか、と疑問に思います。

被災地に入った米コロンビア大学教授のジェラルド・カーティス氏は新聞紙上で「今、政治に必要なのはスピードと決断だ」と話されていました。私も同感であり、市議として何ができるのかあらためて考えなければならないと痛感しました。

川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学大学院（公共政策修士）修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容について積極的に市政報告を実施。

その他 ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ　検索

今月の1枚

防塵ゴーグル、マスクなど未だ備えなくてはできない活動です。また人手もまだまだ必要。